

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 小浜市立内外海小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒917-0106
福井県小浜市阿納尻 45-9

E-mail : uchitomi@edu.city.obama.fukui.ne.jp

Website : http://edu.city.obama.fukui.jp/uchitomi/

児童生徒数：男子 40名 女子 42名 合計 82名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

学校教育目標「内外海に誇りを持ち、未来へ大きな志を持つ子」のもと、

- 内外海地区の人、自然、文化、歴史、産業に意欲的に関わり、ふるさとのすばらしさを学ぶ子
- 内外海で育つ自分に誇りと自信を持ち、未来への夢や希望、志を持つ子
- 自分と内外海の人、自然、文化、歴史、産業とのつながりに気付き、つながりを大切にできる子 の育成を目指し、以下の活動に取り組んできた。

(1) 内外海地区の地形の特徴を知る

① 内外海半島を眺望する「久須夜岳」登山（1～6年生）

内外海半島の中央にそびえる久須夜岳はおよそ620m。校歌には「あの峰は若狭の空にそびえたち海の幸彦、幸姫の幸せ守った久須夜の峰よ」とある。内外海地区のシンボリックな存在の山である。登りながら木々の間から、わが校区に散在する各集落の港や、ふぐやわかめ、カキの養殖場や定置網の様子も眺望することができる。頂上からは半島の地形が見晴らせる。春の遠足は隔年で久須夜の頂上を目指す山登りに取り組んでいる。

昨年は「ぐるっと一周内外海半島」として船と徒歩で内外海半島を一周した。ふるさとの特徴的な地形を知ることができた。



② 蘇洞門（そとも）を調べる（4年生）

「蘇洞門（そとも）」は長さ6kmにわたり波の浸食によってできた洞門や奇岩が見られる断崖である。昨年の「ぐるっと一周内外海半島」のときに船上から見た「蘇洞門（そとも）」のダイナミックな光景が忘れられず、今年度は再度見学した後、地形のでき方、岩石の種類や特徴などについて調べ学習を行った。地球の歴史、地殻変動などにも興味関心が高まる活動となった。



③ 「内外海はひとつ！ふるさと駅伝大会」（1～6年生・保護者・地域住民）



校区内の甲ヶ崎から田烏までの往復28kmをたすきでつなぐ駅伝大会（公民館と共催）は今年度で8回目となった。本校児童5チームと中学生を含む地域ランナー1チームとで走っている。「内外海はひとつ！」を合言葉に地域の人々の声援を受けながら、梅林を抜けてリアス式の海岸道路を校区の東西の端から端まで走りきる達成感の大きい行事となっている。

(2) ふるさとの産業と地域活性化に尽力する人々の生き方を学ぶ

① 定置網体験（5・6年生）

宇久の海で定置網（おおしき網）をひく体験を行った。海の生き物の生命力

を感じるとともに海の豊かな恵みへの感謝の思いも湧き上がってくる体験活動である。また、このふるさと内外海の海を豊かなまま大切に守らなければという思いも高めることができた。そして「宇久定置網」の漁師から漁師としてのものの考え方、生き方を学ぶ機会ともなった。海を豊かにするために山を育てる活動への意欲につなげることができた。



② 若狭フグの養殖見学（４年生）

阿納の若狭ふぐの養殖の歴史や、技術、知識について、ゲストティーチャーを招いて話を聞いたり、見学に行ったりして学んだ。た。４年生の知的好奇心は旺盛でコミュニケーション力、情報収集力を駆使して学習を充実させることができた。学習発表会では、ワイドショー仕立てで、学んだことをアウトプットできていた。

③ 若狭ワカメの養殖体験（４・５年生）

犬熊の海のワカメの養殖を体験することができた。なわに種付けを行い、数か月して刈り取る作業を行った。同じ内外海地区であっても、ワカメの養殖ができる海とそうでない海とがあることを知り、海水の違いは何なのか、その水はどこからくるのかという新たな課題が浮かび上がり、調べてみたいという意欲が生まれてきている。刈り取ったワカメは干して、後日京都での校外学習で若狭の海の恵みのPR活動に使ったり、ふるさと祭りでおかめおにぎりにしてふるまったりしている。

地域の人から学んだことをふるさと祭りでお返しするという活動で内外海を誇りに思う気持ちを発信している。

④ 梅もぎ 梅干し 梅ジュース作り（１～３年生）

内外海は梅の産地でもある。学校に隣接する集落に大きな梅の木があるので６月ごろに１～３年生で梅もぎを行い、１・２年生は梅ジュース、３年生は梅干しを作る体験を行った。地域の人、祖父母のGTを招き助言してもらっている。

⑤ 伝統を継承する達人から学ぶ「食の世界遺産『鯖のなれずし』」作り（６年生）

内外海地区に古くから伝わる伝統食「鯖のなれずし」は食の世界遺産に認定されている。かつて内外海の漁師たちは巾着網船団を作って能登半島沖や隠岐の島と境港のあたりで盛大に鯖漁をしていた時期があった。内外海地区ではその鯖を使って「へしこ」を作り、その「へしこ」をさらに麴につけて「なれずし」にする。内外海の人々の知恵と工夫の伝統食である。その「なれずし」を広く発信し、地域の活性化に尽力している人がいる。達人から作り方を学ぶと同時に、生き方も学んでいる。



(3) ネットワークを生かした「海と山は友だちプロジェクト」(５・６年生)(中名田小学校４～６年生と交流)

市農林水産課、猟友会、民間企業「環境アセスメント」の指導を受けて、「海と山は友だちプロジェクト」の活動を展開してきた。昨年度も植樹活動を中心に鳥の巣箱作りや鳥獣の生態調査等行ってきたが、今年度は中名田小学校の児童と交流しながら、地域の山の違いなどを学ぶ活動を取り入れ発展させている。

① 学校の裏山「志の道」に住む動物の生態調査

学校の校庭から裏山まで歩き、食べ跡が残る草、足跡、ふんからけものの生態や動きを読み取る学習を行った。身近なところでは学校の畑の作物や花壇の花がシカやイノシシ、サルに荒らされるという実態があり、苦慮していたところであったので、鳥獣害の原因や対策を考えることができた。さらに、海を守り豊かにするためには、山が荒れてはいけけない、そのためにはどうするかという点でも鳥獣害について考え、行動することの大切さも学ぶことができた。



② 山の状態調査 内外海と中名田の山の比較

内外海地区と中名田地区の山の状態を調査し比較を行った。鳥獣害、山の手入れ等の違いで山の状態がこんなにも違うのかという驚きが児童にはあった。ネットワークの力で視野を広げることができた。



③ ジビエ料理体験（イノシシ肉の餃子とシカ肉スーラーメン）

獣害対策の一つとして猟師たちが駆除を行っている。猟師の大切な役割を理解するとともに、ただ駆除するだけでなく大切な命であるので感謝していただくことを体験的に学んだ。



④ 嶺南地区「鳥獣被害を考える会」で学習の成果を発表

昨年度から2年間かけて「海と山は友だちプロジェクト」で取り組んできた学習活動の成果を発表した。

⑤ 学校の裏山「志の道」に植樹、ベンチを設置

地元や鯖街道のゴール地点である京都出町柳榊形商店街でPR活動をした際に得られた協力金で植樹を行った。県・市農林水産課、小浜水産高等学校、海の漁師、山の猟師、老人クラブ、企業の方々との協働で行うことができた。

「志の道」の展望台にベンチ（卒業製作）を設置し、保育園の活動や地域住民の散歩、体力づくりに活用してもらいやすくした。日常的に「志の道」に登ることで、自然観察や自然保護への意識を常にもってられるようにしている。

(4) ネットワークを生かしてふるさとの誇りを発信

① CD『ワカサノタカラ』制作



レゲエミュージシャン (sing J Roy) のCD製作に歌詞作りとコーラスで参加。内外海の誇り、大好きなもの、「タカラモノ」を児童が出して、Sing J Roy さんが歌詞にしていた。「町屋 de フェスタ」(小浜商工会議所主催)ではSing J Roy さんと一緒に歌で出場した。

⑥ 鯖街道を走破「自転車で京をめざそう」

先人が鯖を背負って京まで歩いた「鯖街道」を児童が自転車でたどる活動。往路45kmを自転車で走破した。「鯖街道」のゴール地点である京都出町柳商店街では『ワカサノタカラ』を歌い、食の世界遺産「鯖のなれずし」をふるまってふるさと内外海、若狭の海の恵み、素晴らしさをPRした。

そして、海をずっと豊かに未来まで守るために、山を育て、守っていくための活動である「海と山は友だちプロジェクト」についてもPRし、植樹活動への協力をよびかけた。



⑦ 「内外海地区ふるさと祭り」で元気を発信

(1)～(3)の活動を通して学んだことを中間発表的な位置づけで「ふるさと実践発表会」として発信。全学年で「ワカサノタカラ」を歌い、テントで出店。1, 2年生は梅ジュース、3年生は梅干し、4年生はわかめの味噌汁、5年生はわかめおにぎり、6年生は鯖のなれずしを販売、ふるまい体験を行った。児童の自発的、自主的な活動となり、地域の誇れるものを直に地域住民とコミュニケーションしながら発信できたことが大きな喜びとなった。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()